

道北地域の景気の基調判断を上げました（2013年5月）

皆さん、こんにちは。いつもこのサイトをご覧いただき、誠にありがとうございます。

さて、5月16日に公表しました「[金融経済概況（道北地域）](#)」では、道北地域の景気の基調判断を上げ、「一部に持ち直しの動きがみられている」としました。基調判断の上げは3月（「一部に持ち直しに向けた動きがみられる」）以来2か月振りです。需要項目別にみると、個人消費（観光を含む）は、一部に持ち直しの動きがみられています。3月の大型店売上高は微増となりました。自動車販売は実勢では底堅く推移しています。観光は持ち直しています。公共投資は下げ止まっています。設備投資は底堅く推移しています。住宅投資は一進一退の動きとなっています。この間、雇用・所得面では労働需給面を中心に改善の動きが続いています。生産は円安に伴い一部に輸出増加等の前向きな動きがみられています。

今年の北海道・道北は長期にわたり天候不順に見舞われています。1月や3月の暴風雪に続き、4月は急激な気温低下に見舞われました。これが、観光や大型店売上高にも悪影響を及ぼしました。また、円安・原材料価格の上昇もマイナス要因です。

しかしながら、一部で円安や株高等に伴う前向きな動きがみられています。製造業の一部では輸出増加や輸入減少等に伴う製品価格値上げの動きがみられているほか、観光もインバウンド観光客を中心に増加傾向にあります。また、スーパーにおける競合激化等の影響がみられる大型店売上高でも、ブランド品や時計、新入学・新生活関連商品などの非日常的な消費については一部で動意がみられています。

3月の道北短観で業況判断D.I.の先行きが3年3か月振りに改善したことに示されるように、先行きに対する期待は非常に強い中、一部で改善の動きもみられています。こうした動きが更に拡大していくかどうか、今後の動きを注目しています。

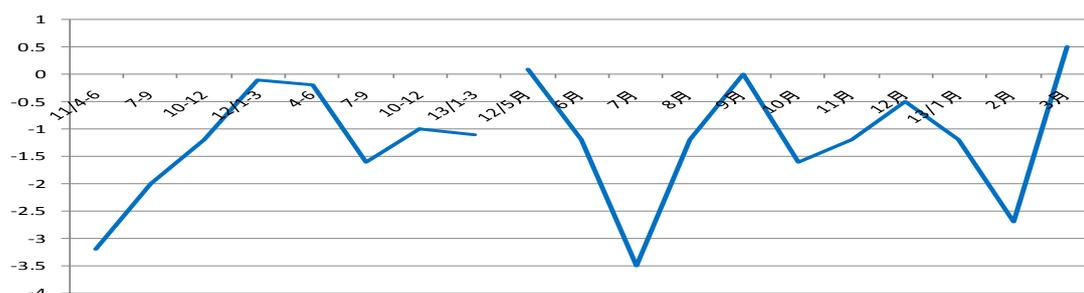
主な特徴点は下記の通りです。それ以外については、[金融経済概況](#)をご覧ください。

まず、個人消費（観光を含む）です。

3月の大型店売上高（+0.5%）は、上旬頃までは大雪の影響がみられたものの、日曜日が昨年に比べ1日多かったほか、新入学・新生活関連商品（フォーマルな子供服、ダイニング・バス用品等）や下旬にかけての気温上昇に伴う一部レジャー関連用品の売れ行き好調から、6か月振りに増加しました。

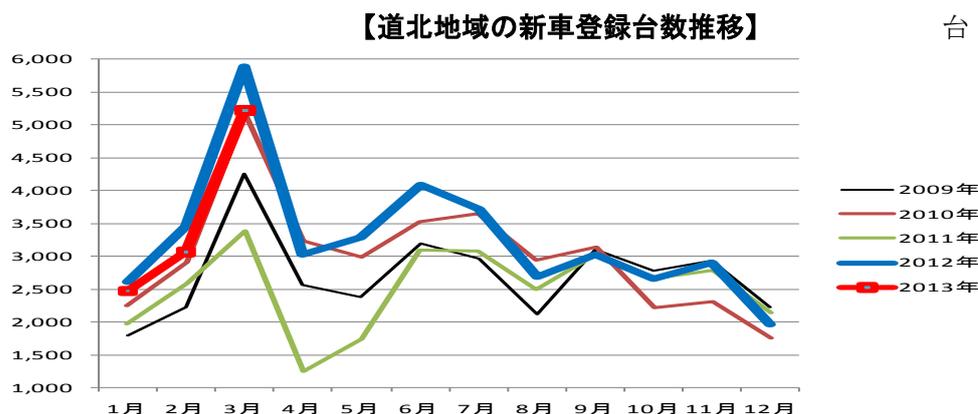
【道北地域の大型店売上高推移】

前年比・%



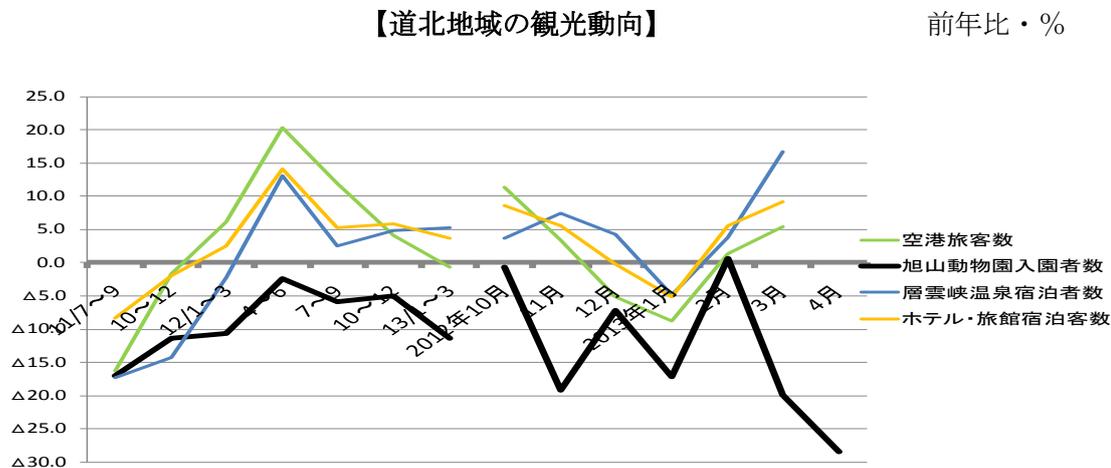
4月は気温低下から春物衣料の出足が不振でした。ただし、天候要因を除けば「消費者の節約志向は根強い一方、ブランド品、時計等非日常的な支出については引続き好調であり、基調に大きな変化はうかがわれない」との声が聞かれています。

3月の新車登録台数は軽乗用車や新型車を中心に実勢では底堅い動きが続いています。前年比では、前年（2011年12月から2012年9月までエコカー補助金により水準が嵩上げ）の裏から減少（△11.5%）しましたが、前々年（2011年3月）比では+53.7%と大幅に増加しました。



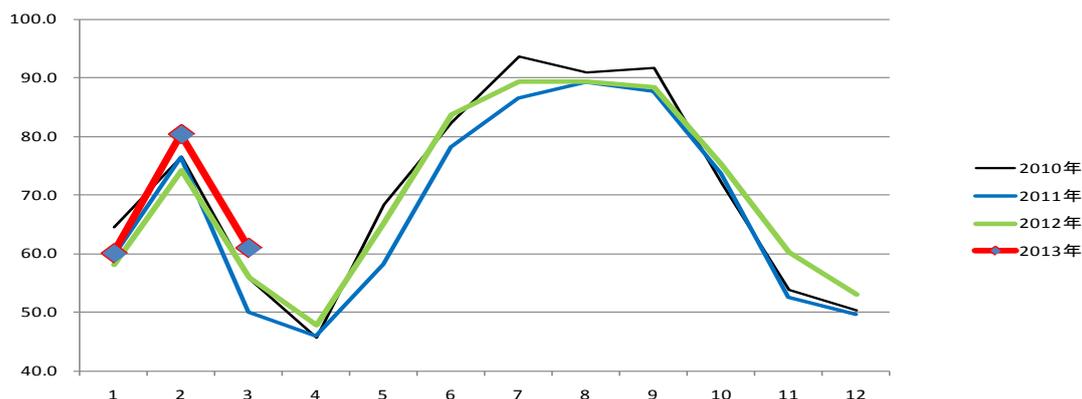
観光は持ち直しの動きが続いています。

3月は増加しました。国内観光客は月前半の大雪で層雲峡・旭岳地区、ウトロ温泉地区、網走・温根湯地区ともに大量の（ホテルによっては合計千人規模の）キャンセルが発生しました。とりわけ、屋外施設である旭山動物園入園者数は悪天候の影響を大きく受け、大幅に減少しました。しかしながら、3月を通してみると、層雲峡が氷瀑まつりの期間延長（2012年：3月25日まで→2013年：3月31日まで）の効果等から大幅に増加し、全体でも増加しました。層雲峡では、台湾およびタイからのインバウンド観光客が大幅に増加したほか、春休みのファミリー客等の道内客も好調でした。



旭川地区における宿泊施設の客室稼働率の前年差推移をみると、下図の通り、春節時期の相違（春節時期 2013年：2月、2012年：1月）もあって大きく改善した2月に続き、3月も好調でした。3月の客室稼働率は61.0%と、2月に引続き過去4年間で最高を記録しました。

【旭川地区の宿泊施設の客室稼働率の月別推移】 %ポイント



4月は雪や旭山動物園といった集客力ある観光の目玉がなくなる季節であり、国内・インバウンド観光客ともに動きが乏しくなる、年間で一番の閑散期となります。今年はこれに気温低下や降雪による悪影響も加わり、あまり冴えない動きとなった先が多かった模様です。とりわけ4月27日から夏期開園した旭山動物園の入園者数は、悪天候（気温低下や降雪）の影響から、4月中は△28.5%と、大きく減少しました。

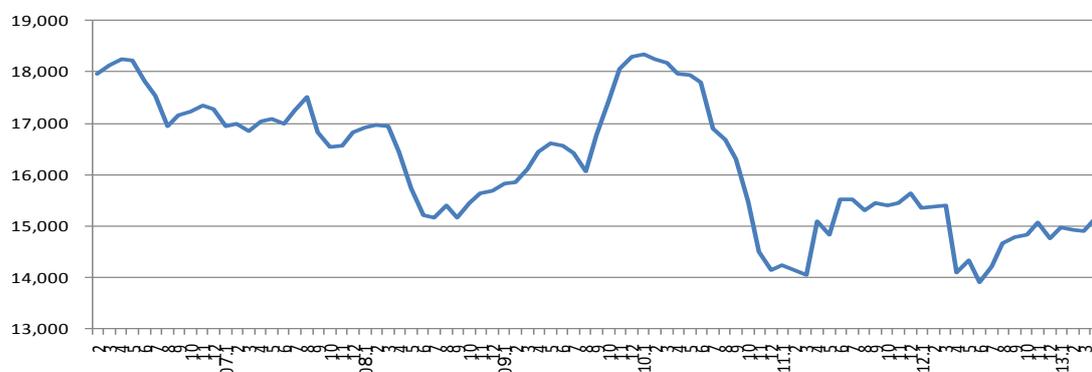
ゴールデン・ウィーク期間中は、上記の通り悪天候の影響から屋外施設の旭山動物園で大幅に減少したほか、ウトロ温泉地区等でも降雪の影響から宿泊客が減少したとの声が聞かれました。一方、旭川市内のホテルの一部からは、円安や曜日構成（連休の谷間が3日あり、連続の休暇が取りづらい）の関係で行き先を海外から国内にシフトした観光客が多かったこともあって、「宿泊単価を昨年より高めに設定していたにもかかわらず宿泊前日等の間に道内客の予約が入り、客室稼働率も昨年より上昇した」との声が聞かれました。

先行きについても、インバウンド観光客が引続き増加傾向にあるほか（旭川-台北便が5月2日からのエバー航空の就航に伴い、週一便から週四便に増加したことも好材料です）、国内観光客についても「6月以降の集客の出足が比較的好調である」との声が一部から聞かれるなど、持ち直し傾向持続を予測する向きが多くなっています。

公共投資は下げ止まっています。3月の公共工事請負金額をみると、上川総合振興局管内で減少したものの、宗谷およびオホーツク総合振興局管内で増加し、3総合振興局合計では3か月振りに増加しました（+15.9%）。振れを均すため後方12か月移動平均でみると、下図の通り、下げ止まっています。2012年度累計では、+7.6%の増加となりました。

新年度予算や2012年度補正予算（全額2013年度に繰り越し）の工事発注が本格化するに従い、公共投資ははっきりと増加に転じていく見込みです。

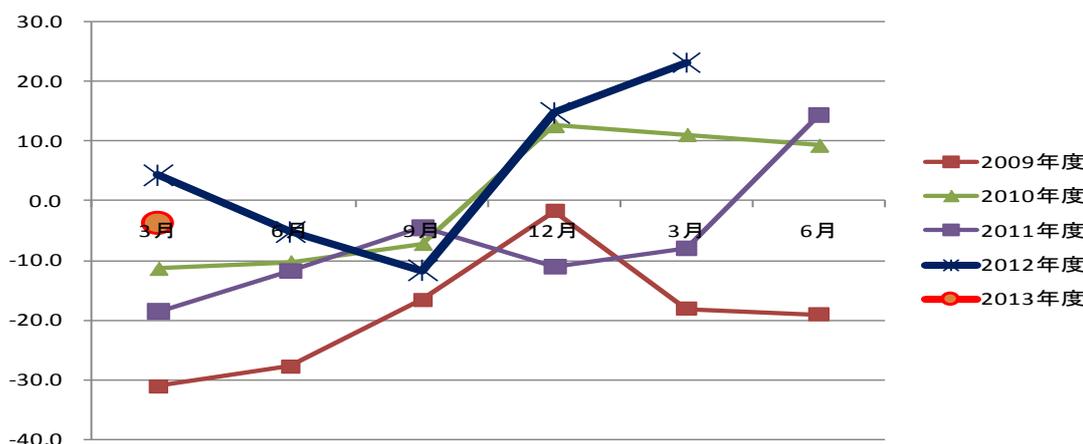
【道北地域の公共工事請負金額推移（後方12か月移動平均）】 百万円



設備投資は、底堅く推移しています。

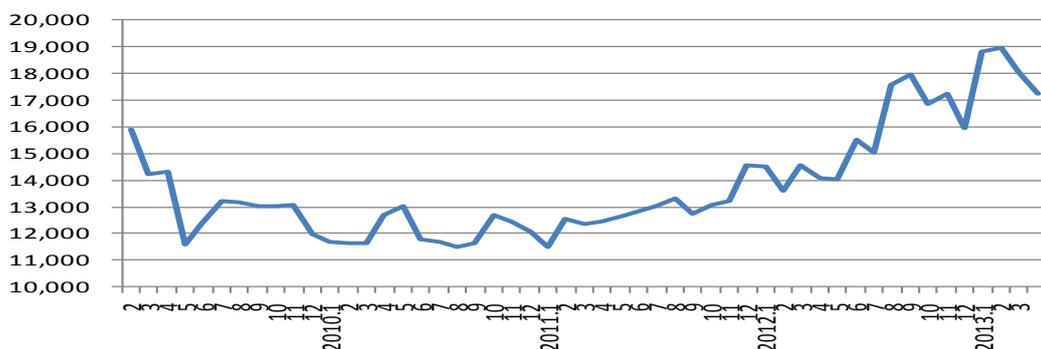
道北地域の「企業短期経済観測調査」（2013年3月調査）における2012年度の設備投資実績見込額は12月調査比+7.3%上方修正され、+23.2%となりました。窯業・土石製品および鉱業・採石業で上方修正されています。今回調査から利用可能となった2013年度計画は▲3.7%の減少と、3月調査としては過去5年間で2番目の水準であり、この時期としては比較的しっかりとした計画となっています（設備投資計画は、内容が固まった段階で計上されることが多いため、期を追う毎に上方修正される傾向にあります）。

【道北地域の短観・設備投資計画の修正状況推移】 前年比・%



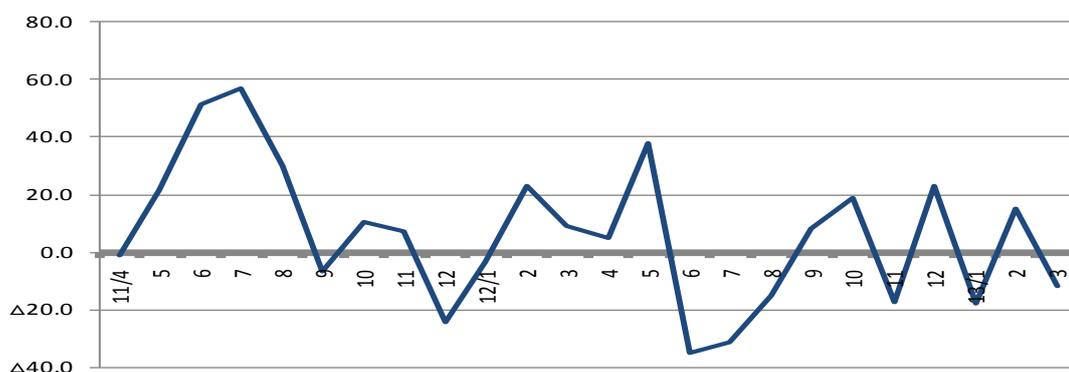
設備投資と関連性がある非居住用建築確認申請床面積については、3月は大幅に減少しました。ただし、振れを均すために後方12か月移動平均でみると、下図の通り2011年以降着実に持ち直しています。

【主要4市の非居住用建築確認申請床面積推移（後方12か月移動平均）】 m²



住宅投資については、昨年秋以降、一進一退の動きとなっています。3月の新設住宅着工戸数は2か月振りに減少しました。昨年10月以降増加と減少を繰り返しています。

【道北地域の新設住宅着工戸数推移】 前年比・%



3月のオホーツク漁業（稚内、網走、紋別、枝幸港の4港合計）は端境期ですが、にしんの増加等から、数量、金額とも増加しました（前年比 数量：+15.8%、金額：+26.8%）。

製造業の生産は、一部で円安に伴う輸出増加等の前向きな動きがみられています。

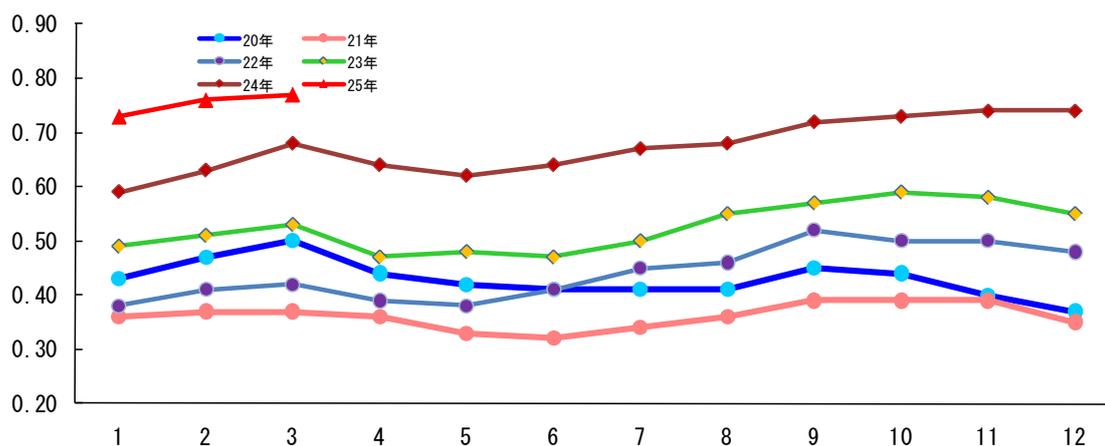
製材の生産は自動車等向けこん包材需要の減少等から13か月連続で減少しました。もっとも、減少幅は緩やかながら縮小しています（前年比：△5.4%、2012/10～12月△8.3%→2013/1～3月△6.1%）。合板は最終需要が好調に推移する中、フル操業を続けていますが、当月は手間がかかる高付加価値製品のウエイトが低かったことから、+10.4%と増加しました。紙・パルプは印刷用紙が流通在庫圧縮のための一時的な減産から大幅に減少したため、全体でも微減となりましたが、輸入紙の流入減少から需給環境は改善しており、製品価格の値上げが浸透しつつあります。また、雑種紙が円安に伴う輸出の増加から大幅に増加しました。電子部品関連は、一部製品の作り込みから当月は大幅に増加しました（合板は2月、その他は3月計数に基づく）。

雇用面では、労働需給の改善の動きが続く中、道内の雇用者所得も下げ止まりつつあり、前年並みで推移しています。

労働需給は改善しています。3月の有効求人倍率は、北見地区は前年を下回ったものの、その他の3地区で前年を上回りました。旭川地区の有効求人倍率（下グラフ参照）は、0.77倍と、1991年3月（0.80倍）に次ぐ史上2番目の高い水準となりました。3月の道北地域の新規求人は網走・北見地区の減少から1年8か月振りに減少しましたが、旭川地区における常用新規求人数は+1.8%の微増となりました。当月は、業種別には医療・福祉（+18.8%）、建設業（+9.7%）、卸売業、小売業（+17.8%）などで増加した一方、運輸業、郵便業（▲34.9%）、宿泊業、飲食サービス業（▲43.5%）などで減少しました。3月の旭川地区の職業別有効求人倍率（パートを除く常用）中需給がひっ迫している業種は型枠大工・とび工（2.27倍）、建設・土木作業員（2.02倍）、ホームヘルパー・ケアワーカー（1.59倍）、医師・薬剤師等（3.50倍）などで、需給が緩んでいる業種は一般事務員（0.12倍）、清掃作業員（0.35倍）、販売店員・訪問販売員（0.47倍）などとなっています。

【旭川地区の有効求人倍率推移】

倍



2013年5月16日
荒木 光二郎